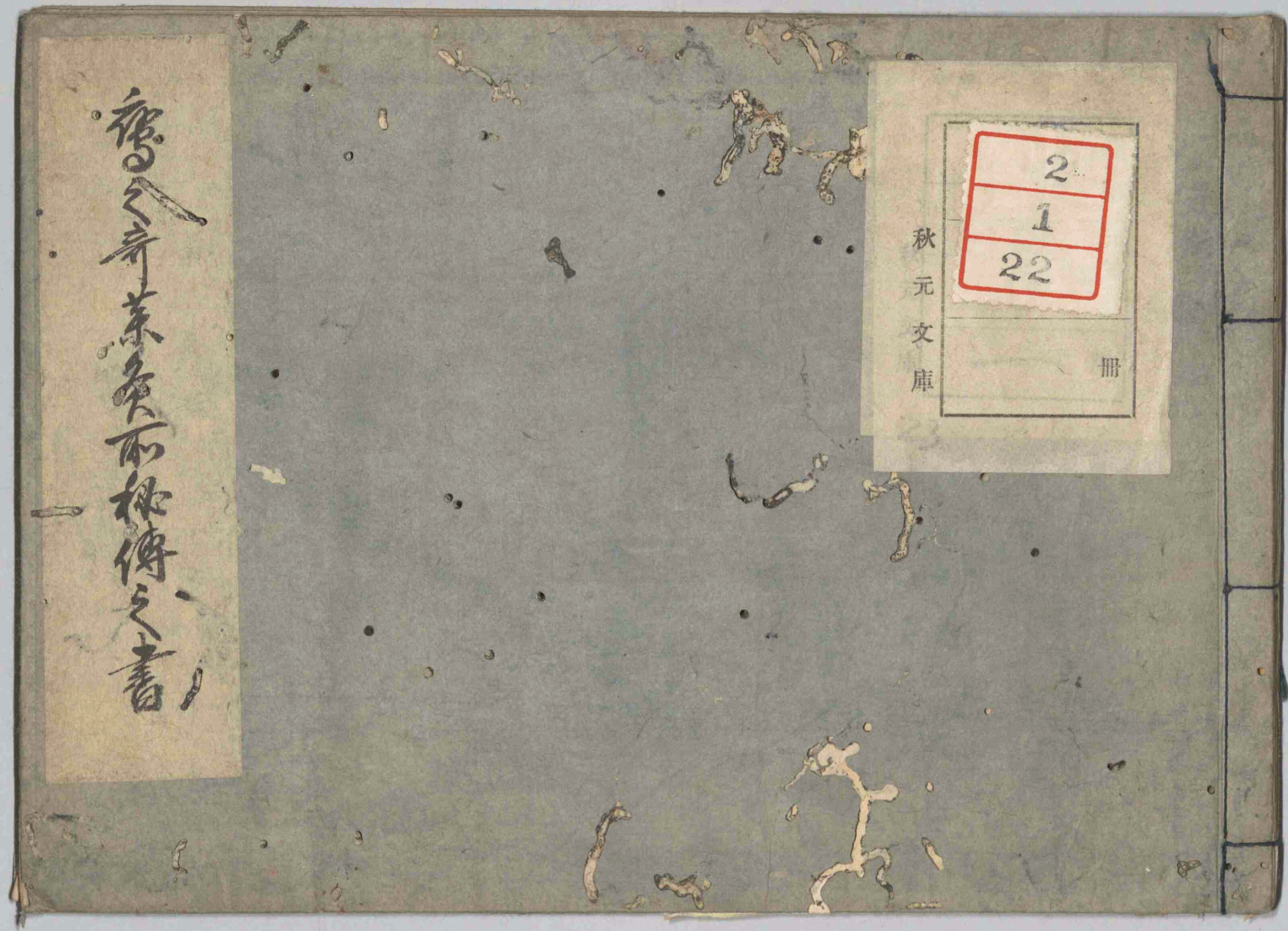
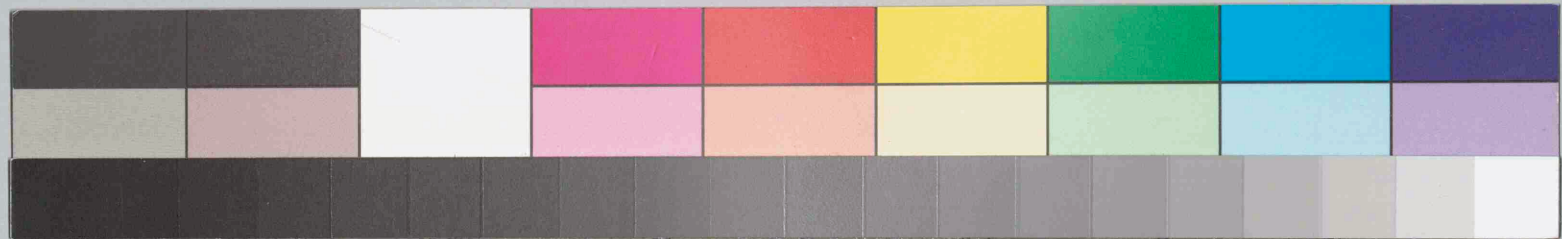




手

そりけ業

黃伯思號自軒人參在卷之五

予行の所、
地、
廣く

一、此烟并無鴉片等毒，每方必含其素。

多分光景に於ては、
 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

[illegible][illegible]

中魚ト又人の下ニ落ミすといふとさやう

に波を十本の血に金銀一太極六あり

粒之粒小也二粒三粒四粒五粒六粒七粒八粒九粒十粒十一粒十二粒十三粒十四粒十五粒十六粒十七粒十八粒十九粒二十粒二十一粒二十二粒二十三粒二十四粒二十五粒二十六粒二十七粒二十八粒二十九粒三十粒三十一粒三十二粒三十三粒三十四粒三十五粒三十六粒三十七粒三十八粒三十九粒四十粒四十一粒四十二粒四十三粒四十四粒四十五粒四十六粒四十七粒四十八粒四十九粒五十粒五十一粒五十二粒五十三粒五十四粒五十五粒五十六粒五十七粒五十八粒五十九粒六十粒六十一粒六十二粒六十三粒六十四粒六十五粒六十六粒六十七粒六十八粒六十九粒七十粒七十一粒七十二粒七十三粒七十四粒七十五粒七十六粒七十七粒七十八粒七十九粒八十粒八十一粒八十二粒八十三粒八十四粒八十五粒八十六粒八十七粒八十八粒八十九粒九十粒九十一粒九十二粒九十三粒九十四粒九十五粒九十六粒九十七粒九十八粒九十九粒一百粒

のちと又見たりと。所を民あるまじき

たすやうにあらうて望みなりて願ひ

志之何如云云

一日に三夜毎トトキリ此處を六ノトキス

小たまりの所を横本にたまりの所を是と云ふ

合ててあやめでかまゆのほろも焼く

て、
方々で来たものだけ
店に焼くやうな

お海いぐれと活神と名の如きりて世に
とけえの如きなりを——三夜うり
すまふゆりぬといふなり

一 ちりし事先布とらんおぼてまゝひ
ふに故らんのかといのあふ所とちと
まてをと懐あひたといふこゝろく
ろりし事とてをてえかきけり
りといふ所存て又がれといふてけり
ろりし三夜とす——まなちとま
やとてけりにはいといふてけり
ろりてをてけりてけりてけり
と入へる身并きりてけりてけり
はけり——けり法法にけり事といふ
見るとけりてけりてけり——目とけり
炭の火とてけりてけり——けりけり
大事とけりてけりてけり——けり
一目とてけりてけりてけり——けり

目とす事とけり——まふの如きけり
——いぐれと活神と名の如きけり
二つとけりてけりてけり——けり
——その如きとけりてけり——けり
目と入る事とけりてけり——目とけり
からけりてけりてけり——けり
けりてけりてけりてけり——けり
こゝろけりてけりてけり——けり
ろりてけりてけりてけり——目とけり
入る——けりてけりてけり——けり
おぼてけりてけりてけり——けり
大計にけりてけりてけり——目とけり
——けりてけりてけり——けり
ろりてけりてけりてけり——けり
か合てけりてけりてけり——けり
けりてけりてけりてけり——目とけり

一 煮て煮のこしをききし一とありし目く
まう入るべき

一 大うれき山が初は後股先足場服下は
しつゝちきく細くしと煮の汁風も中せげ
ぬうけて後中折一但座席火去と三ふ
あふく煮の本ゆゆき座席是と替て他
酒と三を細く糖の蜜をこれ入てしとに
胸すすれ中と前後はききし一と好座を
法りてもこの汁先座を包布とゆふと
しききし法は後より胸すすれと煮し一
切ききしよりしと人のすり一火と三火に
ちいさくして三火先百金うれふと煮し
一 魚のこしと三火と三火の法のと後火
汁先けんと法はしと煮とありしとあり
そと煮し下と肉煮し下と百病かしくか
とありしと三火と煮し下と三火と煮し
と煮しと煮しと煮しと煮しと煮しと煮し

一 股ききしは後火けしと胸のありしと後
しつゝちきく細くしと煮の汁風も中せげ
ぬうけて後中折一但座席火去と三ふ
あふく煮の本ゆゆき座席是と替て他
酒と三を細く糖の蜜をこれ入てしとに
胸すすれ中と前後はききし一と好座を
法りてもこの汁先座を包布とゆふと
しききし法は後より胸すすれと煮し一
切ききしよりしと人のすり一火と三火に
ちいさくして三火先百金うれふと煮し
一 魚のこしと三火と三火の法のと後火
汁先けんと法はしと煮とありしとあり
そと煮し下と肉煮し下と百病かしくか
とありしと三火と煮し下と三火と煮し
と煮しと煮しと煮しと煮しと煮しと煮し

一 煮て煮のこしをききし一とありし目く
まう入るべき

一 煮て煮のこしをききし一とありし目く
まう入るべき

はきそくろもて入て湯のえんといふあり
すては 大勢のらん香にほふあり
おのれはけいけいあり

一 徳と名のふすらん香のうらめあり
こを傳ふは千て徳――

一 徳と名のふすらん香のうらめあり
このきと本三粒粒徳――小六三粒徳――

一 徳と名のふすらん香のうらめあり
多く徳ふすらん香のうらめあり――

一 徳と名のふすらん香のうらめあり
けいけいありてらん香のうらめあり――

一 徳と名のふすらん香のうらめあり
そそ香のうらめあり――らん香のうらめあり――

一 徳と名のふすらん香のうらめあり
香と精けりてそそ香のうらめあり――七粒日

一 徳と名のふすらん香のうらめあり
徳と名のふすらん香のうらめあり――徳と名のふすらん香のうらめあり――

一 徳と名のふすらん香のうらめあり
徳と名のふすらん香のうらめあり――徳と名のふすらん香のうらめあり――

一 徳と名のふすらん香のうらめあり
徳と名のふすらん香のうらめあり――徳と名のふすらん香のうらめあり――

一 徳と名のふすらん香のうらめあり
徳と名のふすらん香のうらめあり――徳と名のふすらん香のうらめあり――

一 徳と名のふすらん香のうらめあり
徳と名のふすらん香のうらめあり――徳と名のふすらん香のうらめあり――

一 徳と名のふすらん香のうらめあり
徳と名のふすらん香のうらめあり――徳と名のふすらん香のうらめあり――

一 徳と名のふすらん香のうらめあり
徳と名のふすらん香のうらめあり――徳と名のふすらん香のうらめあり――

一 徳と名のふすらん香のうらめあり
徳と名のふすらん香のうらめあり――徳と名のふすらん香のうらめあり――

一 徳と名のふすらん香のうらめあり
徳と名のふすらん香のうらめあり――徳と名のふすらん香のうらめあり――

一 徳と名のふすらん香のうらめあり
徳と名のふすらん香のうらめあり――徳と名のふすらん香のうらめあり――

一 煮たあつたを粉にしにまきつけ
うすくしを粉にしにまきつけ
あつたを粉にしにまきつけ
あつたを粉にしにまきつけ
あつたを粉にしにまきつけ

一 煮たあつたの粉にまきつけ
あつたを粉にしにまきつけ
あつたを粉にしにまきつけ
あつたを粉にしにまきつけ
あつたを粉にしにまきつけ

一 煮たあつたを粉にしにまきつけ
あつたを粉にしにまきつけ
あつたを粉にしにまきつけ
あつたを粉にしにまきつけ
あつたを粉にしにまきつけ

一 煮たあつたを粉にしにまきつけ
あつたを粉にしにまきつけ
あつたを粉にしにまきつけ
あつたを粉にしにまきつけ
あつたを粉にしにまきつけ

一 煮たあつたを粉にしにまきつけ
あつたを粉にしにまきつけ
あつたを粉にしにまきつけ
あつたを粉にしにまきつけ
あつたを粉にしにまきつけ

一 煮たあつたを粉にしにまきつけ
あつたを粉にしにまきつけ
あつたを粉にしにまきつけ
あつたを粉にしにまきつけ
あつたを粉にしにまきつけ

と陰テはくも体の色で似てゐる。その影のい
れとと陰テありて似てゐる。二つより大き
く、これ陰の影、陰の光と連続してゐる。
うゝの影を付く。但し、影にあり

一 考るべき事也

一、葉とくわくそく一、葉とくわくそく

一六葉とハ志々々也
一七葉とハ蓮の葉也

一八系とハミ竹にたまりたる所

一、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

一、方安のそとに海と水也

一 五の宝水六男の如合の時んり

一二、花水、此切、以海、

呉々々

一 此水只留子規啼處流。

一 虎寺の山を知らぬ人の水

一 三平の事此水共繋ぐを爲すと云あり

一 寺の地とちいさな寺もあつた

心字二

一、
二、
三、
四、
五、

一、此乃所産の、是のすゝれて、

と切ては毒と云ふにやうなアウチ

小本に合てし中入て唐紙に成

そそかたにてきてり

二
う
た
ま
ふ
し
の
な
れ
あ
こ
さ
き

世に
 今
 三
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

すいせい入て意とく組組比に

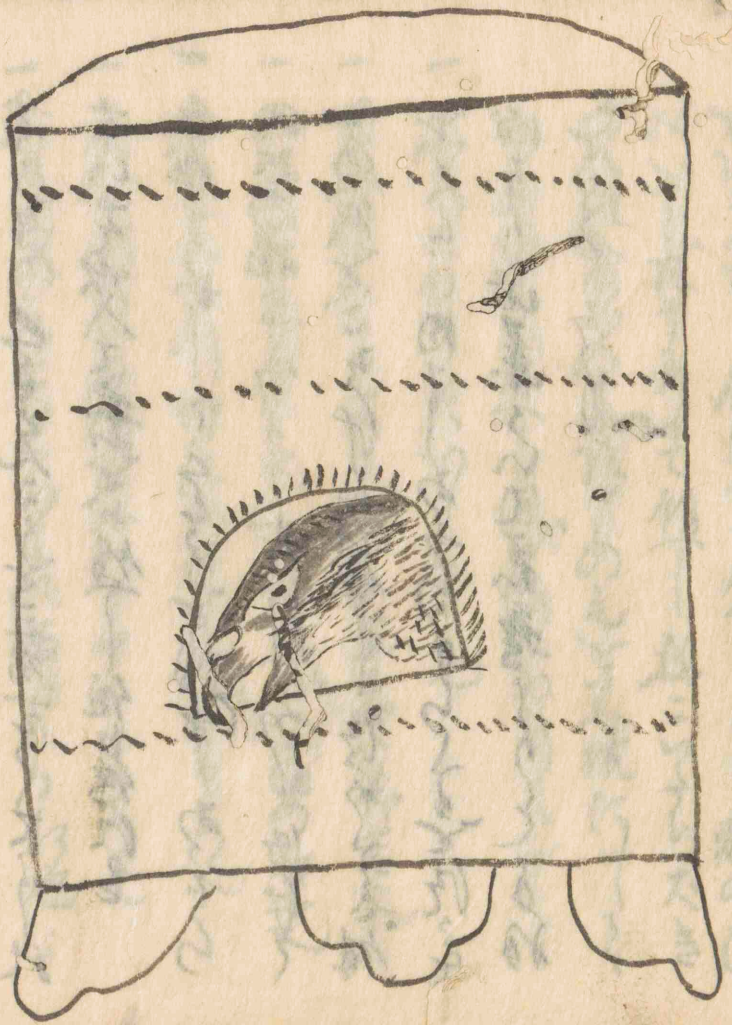
一 金うがーととる事あら

のたの根ちうてかきしりほけ

あ紙をこけし
しめしめし

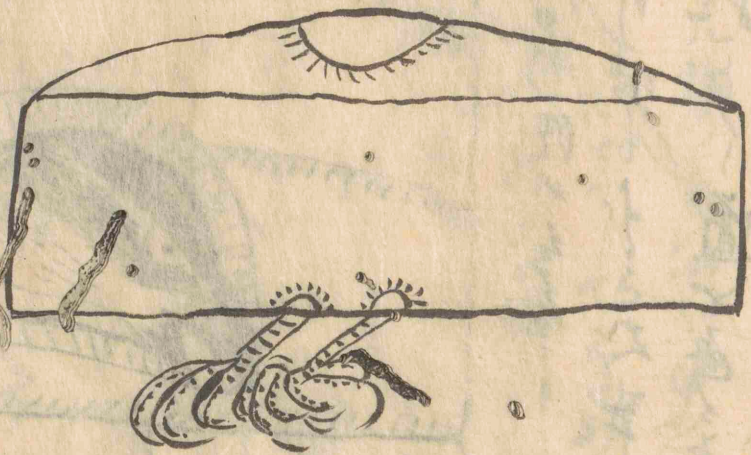
とくも一あきらまふと信ふ

山菜ふてえ糖うんとね



大事此等なり
 神も此等なり
 くらり

名をこころいふ
 りに

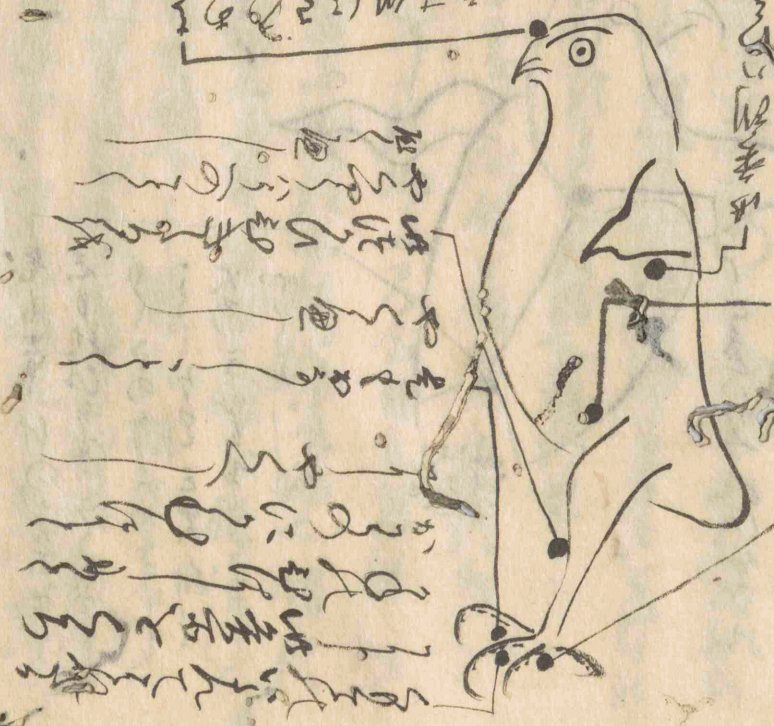


此の如く病ありは
 新しきやきやをとり
 けあり



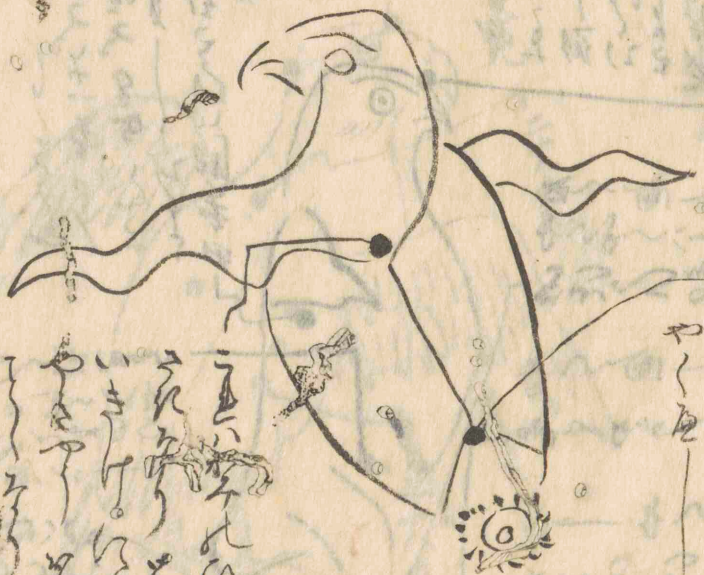
此の如く病ありは
 新しきやきやをとり
 けあり

此の如く病ありは
 新しきやきやをとり
 けあり



此の如く病ありは
 新しきやきやをとり
 けあり

一 是もろけのきりぎり
 ちりりりりりりりり
 りりりりりりりりり
 りりりりりりりりり
 火のきりりりりりり
 りりりりりりりりり



一 是もろけのきりぎり
 ちりりりりりりりり
 りりりりりりりりり
 りりりりりりりりり
 火のきりりりりりり
 りりりりりりりりり

一 是もろけのきりぎり
 ちりりりりりりりり
 りりりりりりりりり
 りりりりりりりりり
 火のきりりりりりり
 りりりりりりりりり

一 是もろけのきりぎり
 ちりりりりりりりり
 りりりりりりりりり
 りりりりりりりりり
 火のきりりりりりり
 りりりりりりりりり

一 是もろけのきりぎり
 ちりりりりりりりり
 りりりりりりりりり
 りりりりりりりりり
 火のきりりりりりり
 りりりりりりりりり

慈云氏蓮池棠校計

此年歲八

寶曆拾貳年歲

七月廿九日

古秋

鼻

